

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>これまでの理念を見直し、事業所と地域の関係性強化を謳った理念を作りました。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ミーティングやグループホーム内の勉強会で話し合い、職員全員が日々のケアに活かすよう確認している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議を通じ、地域との関わりを広め、ご家族様には面会時、家族会などにて理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買い物等に出かけた時近隣の方と挨拶を交わしたり会話をしている。</p>	<p>○ 町内会にも加入して地域の情報などもよりよく知っていききたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区の中学生が職場体験に訪れたり、地域の文化祭や保育園の運動会にも入居者様と一緒に参加している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通して地域代表との話し合いを行っている。	○	地域住民の理解を深められるよう地域の研修、会合に関わり認知症ケアの啓発にもっと力を入れていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が自己評価を行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果も全職員に閲覧し、改善に向けて具体策の検討や実践につなげるよう努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域の方、入居者様、家族様に参加していただき、2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、運営状況、日々の暮らしぶり、外部評価等報告し、意見をもらいサービス向上につなげている。全職員にも会議録を閲覧してもらい、確認印を押ししてもらい周知確認している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の消防局に依頼して防災勉強会を開催している。職員はもとより地域代表及びにご家族様も参加していただいている。事業所の実態に接していただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	同法人内でのバックアップ体制は整っているが施設独自での対応は整っているとは言えない。	○	勉強会を開き職員への説明、理解を深めていきたい。月1回の勉強会を開いている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングで高齢者虐待防止法の理解や虐待行為防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとり、丁寧に説明し納得していただき、同意を得るようにしている。入居者様の義務と権利についても明確にしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの相談は常に対応。月2回は利用者の要望や意見を出し合う話しの場を設けている。それを日々のケアに活かせるよう努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	お便りや新聞(隔月)を送付し、来訪時には、状況やエピソードを伝えている。また、金銭管理についても入・出金すべてを家族様に確認していただき判をもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には、手紙や来訪時、家族会等で意見、要望を出していただき、その都度話し合い、改善、向上に取り組んでいる。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃よりコミュニケーションを図るよう心がけ、ミーティングや勉強会をそれぞれ月1回行い意見や要望を聞いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者と職員が話し合い、必要に応じて柔軟に対応できるようなシフトづくりを行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者やご家族への信頼関係を築く為にも顔なじみの職員によるケアを心がけている。もし異動や入・退居の場合にも紹介、引継ぎなど最善の努力を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には順番に参加してもらい、研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。研修資料は、全職員が閲覧できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会勉強会で交流している他、個々に勉強会、研修に参加し、他の法人、他施設の地域連携室等と意見交換等を行い、ケアの向上に活かしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスに配慮し、昼食後など相互に短時間でも気分転換で休憩室が利用できるようにしている。また年1回は、慰安旅行に出かけたり、新年会・忘年会・食事会とディスカッションの場を定期的に設けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も頻繁に現場に来て職員の業務や状況の変化を把握している。本人の意向を重視し、資格取得に向けて支援し、資格の評価も行い、能力に見合った定期昇給している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に本人や家族様と面談を行い、心身状態や本人の思いと向き合い、本人や家族様の不安を理解できるよう努めている。入居者様によっては、ショートステイから利用してもらい、不安をなくしてもらってから入所していただく等工夫している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの経緯やご苦労などしっかり聴き受け止め、事業所側としてどのような対応していくかをよく話し合い、信頼関係が作れるよう努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時状況を確認し、改善に向けた支援を提案し、必要なサービス(訪問介護、ショートステイ、入居など)につなげるようにしている。早急な対応が必要な方には、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族様に見学をしてもらうことから始め、遊びに来てもらったり、納得していただき、ショートステイなどで徐々に馴染んでいただいてサービス利用につなげていく。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様は、人生の先輩であるという考えを職員は共有し、ご本人の思いを知る事に努め、和やかな生活ができるよう配慮している。自己の尊厳を重視している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護する側であるご家族様の苦労を分かち合い、入居者様の情報の共有に努め、共に支援していく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の日頃の状況、思いを細めに報告、相談したり、行事にお誘いしながら、より良い関係づくりに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ出かけられたり、知人、友人との交流が継続できるよう支援に努め、一人ひとりの生活習慣を尊重している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	みんなで楽しく過ごす時間や気の合う仲間同士で過ごせる場面を作れるよう職員が調整役となり支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	電話をかけたたり、かけてもらったり、遊びに来てもらうなど継続的な付き合いができるように心がけている。また、家族からの相談にもものっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で言葉や表情等から汲み取り把握に努め、また家族からの情報も得るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族・本人から聴き取りをし、入居後も折に触れご家族様から話しを聞いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、できない事よりできる事に注目し、その人全体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族様には、面会時等で本人には日常生活の中で意見を聞き、アセスメントをし、職員全員での意見交換、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヶ月以内の見直しと状態変化時の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、排泄等身体状況及び入居者様の状態や職員の気づきは個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有に徹底している。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	在宅に戻られる方に対し、訪問介護の説明。医療連携体制を活かし、受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続、重度化した場合の同グループ内での他施設との連携を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員は、運営推進会議に参加していただいている。ボランティアや消防署員の方には、行事に参加していただく等している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅や他施設へ移動を希望された時などには居宅介護支援事業所のケアマネジャーや地域連携室と連携を取り、サービスを受けられるよう支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加して下さり、色々情報交換、協力関係などを築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院も含め、本人やご家族様の希望する医療機関にも状況に応じ対応している。基本的には、職員同行の受診となっているが、内容によりご家族様に通院介助をお願いする場合もあり、利用契約時にその旨を説明し、同意を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	関連病院に脳外科があり、診療状況や治療方針、認知症についての指示・助言をもらい相談している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	関連病院との連携を密にし、常に入居者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。関連病院に脳外科や物忘れ外来があり、診断情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医療機関に介護サマリーなどの支援方法を提供し、また、ご家族様とも回復状況などの情報交換をしながら速やかな退院支援に結び付けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の方等の入居については、かかりつけ医、事業所の協力病院の医師、ご家族を交えて相談の上、入居していただき、その後も症状変化に応じて話し合いを行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の入居者については、急変時の対応について主治医からの指示を仰いでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいや他の施設に移られた場合は、アセスメント、ケアプラン、サマリーなどの情報交換をし、きめ細かい連携を心がけている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの際に職員の意識向上を図り、入居者様の誇りやプライバシーを損ねないよう対応を徹底している。また全職員の個人情報保護法の理解に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側で決めた事を押し付けるような事はせず、入居者様に合わせた声かけをし、複数の選択肢を提案して入居者様が自分で決める場面を作っている。また、意思表示の困難な方には表情を読み取るよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、一人ひとりその日の状態や気持ちに配慮しながら、できるだけ個々に応じた柔軟な対応をしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行事に合わせ日頃からおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。その他月1回移動理容店を利用、馴染みの店のある方は行けるように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が作った施設隣接の農園で野菜を使って一緒に調理したり、配膳、下膳も共に行い、職員と入居者様が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好物を把握し、馴染みの嗜好品を楽しめるよう日常生活に取り入れているが、飲酒は禁止している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自宅でリハビリパンツ、オムツを使用していた入居者様にも排泄パターンを把握して、日中は布パンツでトイレ使用、夜間はリハビリパンツでポータブルトイレを使用できるようになった。他の方にも気持ちよくトイレが使用できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否の方もいるので、最低週2回の入浴をしてもらっている。声かけの工夫をしても拒む方についてはシャワー浴、清拭で対応している。希望者には、毎日入浴できるように体制を工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう支援している。また寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながらゆっくり話をする等の配慮をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに得意な事で役割を持っていただき、行っていたときには感謝の言葉を伝えるようにしている。意思疎通のできない重度な方には、昔の写真や絵を見てもらい歌などを聞いてもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、財布を持っていただいているが他の方は外出時など職員と一緒にレジを通り支払の感覚を持っていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望、気分に応じて日常生活に散歩や日光浴に出かけたり、季節を肌で感じてもらう為ドライブを含め買い物に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日頃の会話や茶話会等で入居者の行きたい希望を聞き、実現するために職員同士で話し合い支援につなげている。場合によっては家族に協力も依頼する事もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居様の希望に応じて、日常的に家族や友人に電話をできるよう支援している。他の入居者に聞こえないよう、事業所やスタッフルーム内の電話を使用している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来やすい雰囲気づくりを心がけている。訪問時間は生活時間帯と定めており、都合のいい時間帯にいつでも来ていただけるようまた、本人や訪問者が居心地よく過ごせるよう配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は全て身体拘束について理解しており、原則として身体拘束は行っていない。(治療を行う時や緊急やむを得ない場合は、ご家族様の同意の許の身体拘束を行う場合がある。)		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は常時開錠し、外出しそうな様子があれば声かけや一緒に出かける等、安全面に配慮しながら自由に暮らせるよう支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は記録などの時でも常に入居者様と同じ空間で事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、数時間ごとに見廻っているが状況に応じて回数を増やし、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全て取り除くことはなく、入居様の状況に照らしながら厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、入居者様が使う時に注意が必要な物などに分けて管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを話し合い職員の共有認識を図っている。一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐ為の工夫に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応時マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各マニュアルを作成し、消防署の協力を得て入居者様と共に避難訓練、避難経路の確認。消火器の使い方などの訓練を行い、地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者一人ひとりに起こり得る(特に転倒など)についての対応策を職員同士で話し合い、把握し、ご家族様に対応策の説明などを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は普段の状態を把握しており、少しでも変化があれば主治医及び関連病院の担当医に指示を仰ぎ管理者や職員間で対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーを個人別に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時、本人に手渡しきちんと服薬できているか確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日のラジオ体操・リハビリ体操・散歩(雨の日には廊下での歩行)や食材の工夫、水分補給(便秘の方には多めに)をし、自然排便できる取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を職員が理解し、食後歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの力に応じた介助や見守りを行っている。就寝前には義歯の洗浄を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、同グループの管理栄養士によるチェックが行われ、食事摂取量等を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。水分補給も常時行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては、入居者様やご家族様に同意をいただき職員共に予防接種を受けている。感染予防と早期発見の為に感染マニュアルを作成しており、全職員が周知徹底し、早期対応に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の調理用具等を清潔、衛生を保つよう職員で取り決め実行している。冷蔵庫も点検、整理し食材は状態により、冷凍したり、処分している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気になるよう花を生けたり、入居者様が描いた絵画を置いている。また、玄関先にはプランターを置き季節感を演出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器を洗う音、料理している匂い、鍋料理や桜餅など五感、季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。入居者様個々の部屋では、今まで使っていた家具を置いたり、配置を入居者様と一緒に考え、自分の住んでいる家だという意識を高めてもらうよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにイスやソファ、テーブルを置き、冬になれば和室にこたつも配置したり、一人で過ごしたり仲の良い入居者様同士でくつろいでいただけるスペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	机、イス、テレビ他、使い慣れた日用品や家具など持ち込んでいただき安心して過ごせるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアや各居室に換気扇があり、毎朝の掃除の時や一定の時間帯に換気しており、冷暖房は、発汗の様子や冷えなどに注意し、調整している。トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ないように工夫している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下などの住環境が適しているか随時見直し安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって「何がわかにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるのか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わり、混乱や失敗が生じた場合は、職員一同で話し合い、本人の不安材料を取り除くようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	農園のスペースを確保し、庭に花を植え、入居者様が楽しみながら活動できる場を作ったり、玄関先にベンチを置く他、東屋も隣接に配置して涼んだり、日向ぼっこができるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりの入居者様の生活スペースを大切にしながら個々の趣味活動（園芸、美術、書道など）の援助をしています。ご本人の自立性を尊重しつつ、達成感、満足感を得ていただけるようさりげない援助で取り組んでいます。他者との交流の時間が持て、楽しく、笑いのある時間が多く過ごせるように職員は心がけ実行しています。